

日本語版学校規模ポジティブ行動支援 Tiered Fidelity Inventory (日本語版 TFI)

version 1.0

【日本語版 TFI の引用情報】

大対香奈子・庭山和貴・田中善大 (2020). 日本語版学校規模ポジティブ行動支援 Tiered Fidelity Inventory (日本語版 TFI). 日本ポジティブ行動支援ネットワーク. <https://apbsjapan.org/>

【原版 TFI の引用情報】

Algozine, B., Baret, S., Eber, L., George, H., Horner, R., Lewis, T., Putnam, B., Swain-Bradway, J., McIntosh, K., & Sugai, G (2014). *School-wide PBIS Tiered Fidelity Inventory*. OSEP Technical Assistance Center on Positive Behavioral Interventions and Supports. www.pbis.org.

日本語版 TFI とは

Tiered Fidelity Inventory (以下、TFI とする) は、学校教職員が学校規模ポジティブ行動支援 (School-wide Positive Behavior Support, 以下 SWPBS とする) の中心的特徴を適用しているかを測定するための、妥当で信頼性のある効果的な指標であり、日本語版学校規模ポジティブ行動支援 Tiered Fidelity Inventory (以下、日本語版 TFI とする) は TFI を翻訳して作成したものである。TFI は3つの領域(第1層支援:学校全体に対する SWPBS の特徴, 第2層支援:小集団に対する SWPBS の特徴, 第3層支援:個別の集中的な SWPBS の特徴)に分かれており,それぞれ単独にあるいは組み合わせる形で, SWPBS の中心的な特徴が実行されている程度について評価するために利用できる。

TFI は既存の SWPBS の実行度に関する指標(例, SET, BoQ, TIC, SAS, BAT, MATT) の特徴や項目に基づいている。TFI の目的は, SWPBS の実践と継続性の両方の指針を得るために繰り返し測定することができる, 効果的でありながら妥当で信頼性の高い尺度を提供することである。TFI は (a) 学校が SWPBS の実践を必要としているかどうかを決定するための初期のアセスメントのため, (b) 第1層支援, 第2層支援, 第3層支援の実践の方針として, (c) SWPBS の実践の継続性の指標として, そして (d) 州の実践努力の中で実績が認識される学校を特定するための指標として利用されることがある。

TFI は, 第1層, 第2層, 第3層の支援チームが別途存在する場合, そこからの情報をもとに学校の SWPBS 推進チーム(一般的に, 管理職や外部コーチ, 学区のコーディネーターを含む 3~8 名の構成員から成る) が評価を行う。**外部の SWPBS コーチをファシリテーターとして**, 一緒に TFI をつけることを強く推奨する。TFI の妥当性に関する研究では, 学校チームは外部コーチによるファシリテートがあった場合により正確に TFI をつけることができると示されている。

最初に TFI を用いる際に, チームは3層全てについて評価してみることを勧めている。その結果による行動計画が1つまたは2つの層に限定的に焦点化されている場合は, プログレス・モニタリング(3~4か月ごとに TFI の測定)は行動計画にて扱われたその特定の層だけを含めるので構わない。ここで留意すべきは, **TFI が1つあるいは2つの層のみを評価するためにも使える点である**。ほとんどの場合, 年度末に3層全ての得点を含めて TFI の評価をするのが有用である。

TFI をつけると, 第1層支援, 第2層支援, 第3層支援の中心的特徴が実行されている程度を示す項目ごとあるいは下位尺度の得点が得られる。一般的に, 各層について 70% の得点率が児童生徒の改善の成果につながると想定される実践の水準として受け容れられているレベルであるが, TFI のそれぞれの層に関する特定の基準については, 現在研究で同定が進められているところである。

TFI は SWPBS の導入初期と継続的実践の両方をガイドすることを目的としている。いずれの TFI の測定においても, 結果として単に第1層支援, 第2層支援, そして/または第3層支援の得点が得られるということだけではなく, 実践をガイドする **行動計画(付録 A 参照)** を作成するための情報にもなる。

費用

日本語版 TFI は無料で使用可能である。ただし、使用したことを論文等で報告する場合には表紙に示した引用情報を記すこととする。

想定されている評定者

日本語版 TFI は学校の SWPBS 推進チームのメンバーにより、外部の SWPBS コーチと一緒に教示をしてもらいながらつけることが想定されている。

測定のスケジュール

学校チームは SWPBS の実践について、まずは SWPBS の実践を導入する際、そして 3 回続けて実行度が 70%以上に到達するまでは会議 3~4 回ごとに、SWPBS の実践について自己評価をすることが推奨される。ある層の実行度がその水準に達したら、チームは継続的な実践を評価するために年度ごとの TFI の評価に移行することを選択することも可能である。新規に SWPBS を導入する学校は、TFI の第 1 層支援の領域だけを使うことから始め、第 1 層支援の実践が改善されるにつれて第 2 層支援、第 3 層支援の特徴についても追加して評価するといふ。

測定の準備／測定に要する時間

日本語版 TFI のフォーム（本フォーム）は日本ポジティブ行動支援ネットワークのホームページ (<https://apbsjapan.org/>) からダウンロードできる。

第 1 層支援の項目をつける学校チームは、日本語版 TFI をつける前に TFI ウォークスルー（付録 B 参照）を設定する必要がある。1 年に 1 回以上第 1 層支援の評価を行っている（例、プログレス・モニタリングの目的で）チームは学校の教職員が TFI ウォークスルーを行っているかもしれないが、私たちは外部コーチが TFI ウォークスルーを行うことを推奨している。

日本語版 TFI の測定に要する時間は (a) チームやコーチの手続きに対する経験、(b) 日本語版 TFI をつけるための準備の程度、そして (c) いくつの層を評価するか、ということに依存する。

日本語版 TFI を新規で測定する学校チームは第 1 層支援に 30 分、第 2 層支援に 30 分、第 3 層支援に 30 分を予定しておく必要がある。チームリーダーが関連する情報源を収集した上でミーティングに臨んだ場合や、チームやコーチが少なくとも 2 回は日本語版 TFI をつけたことがある場合は、測定に要する時間は各層につき 15 分程度になるだろう。

結果

TFI のそれぞれの項目を採点する基準は第 1 層支援（学校全体に対する SWPBS の特徴）、第 2 層支援（小集団に対する SWPBS の特徴）、そして第 3 層支援（個別の集中的な SWPBS の特徴）の実施の程度を反映する（0 = 実施していない、1 = 部分的に実施している、2 = 十分に実施している）。TFI の項目をすべて評価すると次の 3 つの尺度得点が算出される。まず 1 つめの尺度得点は、SWPBS の第 1 層支援についての実施のパーセンテージ、第 2 層支援についての実施のパーセンテージ、そして第 3 層支援についての実施のパーセンテージである。そして 2 つめが各層の下位尺度ごとの得点、3 つめが項目ごとの得点である。下位尺度と項目に関する得点をレポートにまとめ、コーチングの支援とチームの行動計画をガイドするために活用する。日本語版 TFI はフォームに直接鉛筆で書き込む形でつけ、23 ページにあるスコア表にて各層の点数および実行度（実施）のパーセンテージ（%）を求める。

行動計画の作成

日本語版 TFI の各項目の評価の中から、0 または 1 と評価された項目を 3 つまで選ぶ。選んだ 3 つの項目について、次の評価のタイミングまでに実行度を高められるよう、行動計画を立てる（付録 A 参照）。行動計画は、できるだけ具体的に決め、その計画を遂行する担当者名前と実施期限を決めておく。次の評価のタイミングで計画が実施されたかどうかを確認し、実行度が着実に向上しているかについてチェックする。

第1層支援:学校全体に対する SWPBS の特徴

特徴	利用可能な情報源	得点化の基準
下位尺度:チーム		
<p>1.1 チーム構成:</p> <p>第1層支援のチームは、第1層支援担当のコーディネーター、学校長、保護者と、次の(1)から(5)のことが提供できる者を含んでいる。(1)応用行動分析学の専門性、(2)コーチングに関する専門性、(3)児童生徒の学習と行動のパターンに関する知識、(4)学年や教科全域にまたがる、学校運営についての知識、(5)また高校においては、生徒代表がチームメンバーに含まれること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織図 ・第1層支援チーム ・会議の議事録 	<p>0=第1層支援チームが存在しない、または、コーディネーター、学校長、応用行動分析学の専門性を持つ者を含んでいない。</p> <p>1=第1層支援チームが存在するが、特定された役割全員を含んでいないか、またはそれらのメンバーの会議の出席率が80%未満である。</p> <p>2=コーディネーター、管理職、特定された役割全員が含まれた第1層支援チームが存在し、かつ役割全員の会議の出席率が80%以上である。</p>
<p>1.2 チームの運営手順:</p> <p>第1層支援チームは、少なくとも月1回は集まり、かつ、(1)定例会議の形式/議題、(2)議事録、(3)各参加者の会議における役割の定義、(4)進行中の教職員の行動計画を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層支援チーム会議の議題と議事録 ・第1層支援会議の役割の記述 ・第1層支援の行動計画 	<p>0=第1層支援チームは定例会議の形式/議題、議事録、各参加者の会議における役割、または、進行中の行動計画のいずれも持っていない。</p> <p>1=第1層支援チームは、4つの特徴の全てではないが、少なくとも2つは持っている。</p> <p>2=第1層支援チームは、少なくとも月に1回は集まり、そして、定例会議の形式/議題、議事録、会議中の役割を明確にして、かつ進行中の行動計画を持っている。</p>
下位尺度:実践		

<p>1.3 「学校で期待される姿」の設定:</p> <p>学校は、児童生徒と教職員に対する5つ以下のポジティブに記述された「学校で期待される姿」と、その場面／場所毎の具体例(つまり、ポジティブ行動マトリクス)を明確にして、掲示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TFI ウォークスルーツール ・教職員の手引書 ・児童生徒の手引書 	<p>0=「学校で期待される姿」が特定されておらず、全てがポジティブになっていない、または、その数が5つより多い。</p> <p>1=「学校で期待される姿」が特定されているが、ポジティブ行動マトリクスを含んでいないか、または、掲示していない。</p> <p>2=5つ以下の「学校で期待される姿」が存在し、それはポジティブであり、掲示されていて、具体的な場面に対して明確にされており(つまり、ポジティブ行動マトリクス)、かつ、教職員の少なくとも90%は、の少なくとも67%を挙げることができる。</p>
<p>1.4 目標行動の指導:</p> <p>期待される学業的、社会的な行動が、教室やその他校内の各場面／場所になわたり、全ての児童生徒に対して直接教えられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TFI ウォークスルーツール ・教員研修の日程表 ・行動支援計画 ・非公式のウォークスルー 	<p>0=目標行動が教えられていない。</p> <p>1=目標行動が非公式に、または、一貫性のない状態で教えられている。</p> <p>2=目標行動を教室と校内の各場面で児童生徒に直接教えるために、行動支援のスケジュールが明記された公式なシステムが使われており、かつ、児童生徒の少なくとも70%は、期待のうちの少なくとも67%を挙げるができる。</p>
<p>1.5 問題行動の定義:</p> <p>学校は、学業的、社会的達成を阻害する行動に対する明確な定義と、管理職対応の問題か教職員対応の問題かということに対処するための明確な指針／手続き(例えば、フローチャート)を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の手引書 ・児童生徒の手引書 ・学校教育計画／学校経営計画 ・生徒指導のフローチャート 	<p>0=明確な定義は存在せず、問題に対応するための手続きも明確に記述されていない。</p> <p>1=定義と手続きは存在するが、明確なものではなく、かつ／または、それらが、教職員対応の問題か管理職対応の問題かが整理されていない。</p> <p>2=問題行動に対応するための定義と手続き</p>

		が明確に定められ、文書化され、研修が行われ、保護者と共有されている。
<p>1.6 生徒指導の方針:</p> <p>学校の(生徒指導の)方針および手続きは、児童生徒の行動に対して、積極的、教授的、および/または修復的なアプローチが一貫して実施されることを記述し、強調している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の方針 ・生徒手帳 ・行動規範 ・非公式の学校長インタビュー 	<p>0 = 生徒指導に関する文書は事後的で懲罰的な結果のみを含んでいる</p> <p>1 = 生徒指導に関する文書は積極的なアプローチを含み、強調している</p> <p>2 = 生徒指導に関する文書は積極的なアプローチを含み、それを強調しており、かつ学校長はそれが一貫して活用されていると答えている</p>
<p>1.7 教職員研修:</p> <p>(a) 学校全体の期待を教えること、(b) 適切な行動を認めること、(c) 問題行動を修正すること、(d) 支援を要請すること、という4つの中心的なSWPBS 第1層支援の実践に全ての教職員が取り組めるよう方向付けするための研修が行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の日程表 ・教職員の手引書 	<p>0 = 教職員のための研修手続きが全くない</p> <p>1 = 手続きは、非公式/文書化されておらず、教員研修の日程表に記載がなく、また/もしくは全教職員または第1層支援の4つの中心的な実践すべてを含んでいない</p> <p>2 = 全教職員に第1層支援システムのすべての側面を教える正式な手続きがあり、それは第1層支援の4つの中心的な実践すべてを含んでいる</p>
<p>1.8 学級の手続き:</p> <p>第1層支援の特徴(学校全体の期待、日常的に行う活動の手順が一貫していること、望ましい行動を認めること、教室の問題行動のレベルに応じた各対応が一貫してとられていること)は、学級内で実施され、学校全体のシステムとの整合性がとれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の手引書 ・非公式のワークスルー ・進捗状況の確認 ・個別の教室データ 	<p>0 = 学級内で第1層支援を公式に実施していない</p> <p>1 = 学級内で第1層支援を部分的に実施しているが、正式なシステムは存在しない</p> <p>2 = 学級内で第1層支援のすべての中心的な特徴を正式に実施しており、学校全体「学校で期待される姿」と整合性がとれている</p>

<p>1.9 フィードバックと承認:</p> <p>正式なシステム(つまり(1)学校全体の「学校で期待される姿」と一致している具体的な行動へのフィードバックの手順書,(2)これは教室や校内の各場面にわたり使用される)が存在し,ランダムに聴き取りを行った教職員のうち90%以上によって使用され,ランダムに聴き取りを行った児童生徒の50%以上がそれに基づくフィードバックを受け取っている。</p>	<p>・TFI ウォークスルーツール (行動支援計画書)</p>	<p>0=児童生徒を承認する正式なシステムがない</p> <p>1=正式なシステムがあるが,ランダムに聴き取りを行った教職員の90%以上が使用している,またはランダムに聴き取りを行った50%以上の児童生徒がフィードバックを受けている,のどちらかである</p> <p>2=児童生徒の行動を承認する正式なシステムがランダムに聴き取りを行った教職員の90%以上によって使用され,かつランダムに聴き取りを行った児童生徒の50%以上がフィードバックを受けている。</p>
<p>1.10 教員の関与:</p> <p>教員は学校全体のデータを定期的に提示されており,少なくとも12ヶ月ごとに全般的な基礎的内容(例えば,「学校で期待される姿」,目標行動の承認,行動の定義,行動に対する結果)に関して意見を提供している。</p>	<p>・PBS 実行度チェックリスト</p> <p>・非公式の調査</p> <p>・教職員会議議事録</p> <p>・チーム会議議事録</p>	<p>0=教員は最低年に1回のデータの開示をされておらず,さらに意見を提供していない</p> <p>1=教員は年1回以上データを示されている,または過去12ヶ月以内に第1層支援の基礎的内容についてフィードバックを提供しているが,両方はしていない</p> <p>2=教員は年4回以上データを示されており,かつ過去12ヶ月以内に第1層支援の実践に関するフィードバックを提供している</p>
<p>1.11 児童生徒/家族/地域の関与:</p> <p>関係者(児童生徒,家族,地域住民)は,全般的な基礎的内容に関する情報(例えば,「学校で期待される姿」,行動に対する結果,目標行動の承認)に関する意見を少なくとも12か月ごとに提供する。</p>	<p>・調査</p> <p>・保護者/家族との会合における投票結果</p> <p>・チーム会議の議事録</p>	<p>0=第1層支援の基礎的内容に関する関係者からのフィードバックについての報告がない(またはその機会が設定されていない)</p> <p>1=第1層支援の基礎的内容に関する意見報告はあるが,過去12か月以内のものではない,または児童生徒,家族,地域住民の3者すべてからの報告ではない</p>

		2=第1層支援の実践について児童生徒, 家族, 地域住民が過去 12 か月以内にフィードバックを提供した報告が存在する
下位尺度: 評価		
<p>1.12 管理職への規律指導に関する照会 (ODR) データ:</p> <p>第1層支援チームは行動, 場所, 時間, 児童生徒個人ごとに生徒指導上の問題行動の頻度がまとめられたグラフ化された報告に瞬時にアクセスできる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育計画/学校経営計画 ・チーム会議の議事録 ・児童生徒の行動に関するデータ 	<p>0=進行中の意思決定に用いるための学校規模のデータシステムが存在しない</p> <p>1=データシステムは存在するが, 全てのグラフ化された報告に瞬時にアクセスできない</p> <p>2=行動, 場所, 時間, 児童生徒ごとに問題行動の頻度がグラフ化された報告に瞬時にアクセスできる生徒指導のデータシステムが存在する。</p>
<p>1.13 データに基づく意思決定:</p> <p>第1層支援チームは意思決定のために少なくとも毎月, 生徒指導のデータや学業成績のデータ(例えば, カリキュラムに基づく尺度 (CBM), 学力調査など)を見直し, 活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データによる意思決定のルール ・教職員研修の日程表 ・教職員の手引書・チーム会議の議事録 	<p>0=データに基づく意思決定のプロセス/手順がない, またはデータは見直されているが意思決定のために使われていない</p> <p>1=データは意思決定のために見直され, 使われているが, 月 1 回未満の頻度である。</p> <p>2=チームは少なくとも毎月生徒指導のデータを見直し, 意思決定に活用する。もしデータが学業的あるいは行動的な問題を示したならば, 第 1 層支援を強化もしくは修正するための教職員の行動計画が立てられる。</p>
<p>1.14 実行度のデータ:</p> <p>第1層支援チームは SWPBS の実行度についてのデータ(例えば, SET, BoQ, TIC, SAS, TFD)を最低でも年 1 回は見直し, 活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育計画/学校経営計画 ・教職員の手引書 ・学校通信 ・学校のホームページ 	<p>0=第1層支援の実行度についてのデータが集められていない</p> <p>1=第1層支援の実行度のデータが非公式に集められている, また/もしくは, 年 1 回未満の頻度である</p>

		2=第1層支援の実行度のデータが収集され, 毎年意思決定に活用されている
<p>1.15 年度評価:</p> <p>第1層支援チームは活用可能な形式で関係者(教職員, 保護者, 地域, 校区)と共有されるよう, 第1層支援の実践の実行度と効果(学業成果を含む)について少なくとも毎年(経年比較を含めて)報告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員, 児童生徒, 家族への調査 ・一層支援の手引書 ・実行度の測定ツール ・学校運営/経営計画 ・児童生徒の成果 ・校区の報告 ・学校通信 	<p>0=評価が行われていないか, データを用いずに評価が行われている</p> <p>1=評価は行われているが, 毎年ではない, または結果が第1層支援の手続きを形成するのに活用されていない, さらに/またはそれが関係者たちと共有されていない</p> <p>2=評価は少なくとも毎年実施され, 結果(学業を含む)は評価に基づく明確な改善点も含めて, 関係者と共有されている</p>

第2層支援:小集団に対する SWPBS の特徴

特徴	利用可能な情報源	得点化の基準
下位尺度:チーム		
<p>2.1 チーム構成:</p> <p>第2層支援の(もしくは第2/3層の統合)チームは,第2層支援担当のコーディネーターと,次の(a)から(d)のことが提供できる者を含んでいる。(a)応用行動学の専門性,(b)学校運営に関する権限,(c)児童生徒に関する知識,(d)学年や教科全域にまたがる学校運営についての知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織図 ・第2層支援チームの議事録 	<p>0=第2層支援チームにコーディネーターが含まれていない,もしくは第2層支援チームの4つの中核的な領域を専門とする者を含んでいない。</p> <p>1=第2層支援チームは存在するが,コーディネーターが含まれておらず,さらに第2層支援チームの4つの中核的な領域を専門とする者全てを含んでいない。またはそれらのメンバーの会議の出席率が80%未満である。</p> <p>2=第2層支援チームはコーディネーターと全4領域を専門とする者から構成されており,かつ,これらのメンバー全員の会議の出席率が80%以上である。</p>
<p>2.2 チームの運営手順:</p> <p>第2層支援チームは,少なくとも月1回は集まり,かつ,(1)定例会議の形式/議題,(2)議事録,(3)各参加者の会議における役割の定義,(4)進行中の教職員の行動計画を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層支援チーム会議の議題と議事録 ・第2層支援会議の役割の記述 ・第2層支援の行動計画 	<p>0=第2層支援チームは定例会議の形式/議題,議事録,各参加者の会議における役割,または,進行中の行動計画を使用していない。</p> <p>1=第2層支援チームは,4つの特徴のすべてではないが,2つ以上は持っている。</p> <p>2=第2層支援チームは,少なくとも月に1回は集まり,そして,定例会議の形式/議題,議事録,会議中の役割を明確にして,かつ進行中の行動計画を持っている。</p>

<p>2.3 スクリーニング:</p> <p>第2層支援チームは、第2層支援が必要な児童生徒を特定するための意思決定のルールと複数の情報源からのデータ(例えば、生徒指導の記録、学業成績の向上度、スクリーニング検査、出欠の記録、教師/保護者/児童生徒の意見)を用いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用されている複数のデータソース(例えば、生徒指導の記録、授業を受けられていない時間、出欠の記録、学業成績) ・チームの意思決定ルーブリック ・チームの議事録 ・学校方針 	<p>0 = 第2層支援の対象になる児童生徒を特定するための意思決定のルールが存在しない。</p> <p>1 = データによる意思決定のルールが確立されているが、常にそれに従っていない。もしくは1つの情報源からのデータのみ使用している。</p> <p>2 = 以下を含む文書化された方針が存在している。(a) 第2層支援の対象になる児童生徒を特定するために複数の情報源からのデータを使用すること、(b)児童生徒が第2層支援を受ける前に保護者にそのことを知らせること。</p>
<p>2.4 支援要請:</p> <p>第2層支援チームは、全ての教職員、家族、そして児童生徒が必要な時に使うことのできる支援要請文書のテンプレートとプロセスを用意している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の手引書 ・支援要請のための文書のテンプレート ・家族の手引書 	<p>0 = 公式なプロセスがない。</p> <p>1 = 教職員と家族が支援要請をするための非公式なプロセスがある。</p> <p>2 = 支援要請文書のテンプレートとプロセスがあり、チームは要請があった際には3日以内にそれに応答する。</p>
<p>下位尺度: 支援</p>		
<p>2.5 第2層支援のオプション:</p> <p>第2層支援チームは、児童生徒のニーズにあったエビデンスに基づく行動支援を現在進行形で複数実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の第2層支援の手引書 ・標的を絞った介入に関する参考ガイド 	<p>0 = エビデンスに基づく第2層支援が行われていない。</p> <p>1 = エビデンスに基づく第2層支援が1つだけ行われている。</p> <p>2 = 児童生徒のニーズに合ったエビデンスに基づく第2層支援が複数行われている。</p>

<p>2.6 第2層支援の重要な特徴:</p> <p>第2層支援の行動支援は以下のものを含む。(a)児童生徒のスキル開発のための追加の指導/時間, (b)追加の構造化/見通しを持たせるための支援, (c)フィードバックを受ける機会の増加 (例えば, 毎日の進捗状況の報告)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層支援の指導計画 ・第2層支援の指導計画 ・日毎/週毎の進捗状況の報告 ・学校のスケジュール ・学校の第2層支援手引書 	<p>0 = 第2層支援は, 追加の指導/時間, 改善された構造化を促進するものではない。</p> <p>1 = すべての第2層支援は, 第2層支援の3つの特徴のうちいくつかを提供しているが, すべてではない。</p> <p>2 = すべての第2層支援は, 第2層支援の3つの特徴すべてを含んでいる。</p>
<p>2.7 児童生徒のニーズに合った実践:</p> <p>第2層支援を選ぶための公式なプロセスが存在し, それは以下のものを含む。(a)児童生徒のニーズに合っている (例えば, 行動の機能) (b)文脈適合性を高めるために適用される (例えば, 文化, 発達段階)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を選ぶために使用されるデータソース ・学校方針 ・第2層支援手引書 ・ニーズアセスメント ・標的を絞った支援に関する参考ガイド 	<p>0 = プロセスが存在しない。</p> <p>1 = 第2層支援を選ぶためのプロセスに, 児童生徒のニーズに合った支援であるという文書化が含まれていない。</p> <p>2 = 児童生徒のニーズに合っており, 文脈に適合した (例えば, 発達的にも文化的にも適切な) 実践を選ぶための公式なプロセスが存在する。</p>
<p>2.8 第1層支援との繋がり:</p> <p>第2層支援は第1層支援と明確に繋がりがあり, 第2層支援を受けている児童生徒は同時に第1層支援も受けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層支援の指導計画とスケジュール ・第2層支援の指導計画 ・承認システム ・その月に注意を要する児童生徒に関する文書 ・家族とのコミュニケーション 	<p>0 = 第2層支援を受けている児童生徒が第1層支援も受けているという事実がない。</p> <p>1 = 第2層支援が明確に第1層支援と繋がっていない。さらに/または, 第2層支援を受けている児童生徒が第1層支援のいくつかは受けているが, すべてではない。</p> <p>2 = 第2層支援は明確に第1層支援と繋がっており, さらに第2層支援を受けている児童生徒は第1層支援のすべてを受けている。</p>
<p>2.9 教職員研修:</p> <p>どのように第2層支援の対象児童生徒を選定し, 第2層支援の各支実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修に関する予定表 ・教職員の手引書 	<p>0 = 教職員への第2層支援に関する研修が行われていない。</p>

<p>を実行するのに関し、関連する全教職員を対象とした研修計画等が作成され、実施されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修計画 ・学校方針 	<p>1 = 第2層支援に関する教職員研修（新たに配属された教職員を対象としたものを含む）が研修計画等に記載されずに行われている。</p> <p>2 = 関連する全ての教職員を対象とした研修計画等が存在し、第2層支援を提供する上で必要な全ての側面、すなわち支援要請のプロセス、進捗状況の報告を指導の手がかりとして使用すること、対象児童生徒へのフィードバックを実施すること、児童生徒の進捗状況を確認することを含む。</p>
--	--	--

下位尺度: 評価

<p>2.10 第2層支援を利用している児童生徒の割合:</p> <p>第2層支援の対象児童生徒の割合を把握する手順書に第2層支援チームは従っており、第2層支援の利用割合は適正である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層支援への参入データ ・第2層支援チームの議事録 ・進捗状況を確認するためのツール 	<p>0 = 第2層支援チームは、第2層支援で成果が見られている児童生徒の数を把握していない。</p> <p>1 = 第2層支援チームは、第2層支援で成果が見られているとする基準を定義しており、児童生徒の状況を把握している。しかし、全児童生徒の5%未満しか第2層支援を受けていない。</p> <p>2 = 第2層支援チームは基準を定義し、かつ第2層支援の対象児童生徒の割合を把握しており、最低でも全児童生徒の5%以上が第2層支援を受けている。</p>
---	--	---

<p>2.11 児童生徒のパフォーマンスデータ:</p> <p>第2層支援チームは成功体験を得ている児童生徒の割合(対象児童生徒のうち第2層支援が成功している%)を把握しており、第2層支援の成果に関するデータと、進捗状況の確認と支援の変更に関する意思決定のルールがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の進捗に関するデータ(例えば、目標に到達している児童生徒の%) ・支援状況を把握するためのツール ・日毎/週毎の進捗報告書 ・家族とのコミュニケーション 	<p>0 = 第2層支援チームは、対象児童生徒のうち、成功体験を得ている児童生徒の割合に関するデータを確認していない。</p> <p>1 = 第2層支援チームは、対象児童生徒のうち、成功体験を得ている児童生徒の割合に関するデータを確認しているが、支援の変更(例えば、より集中的にするか、減らすか)に関する意思決定のルールが確立されていない。</p> <p>2 = 第2層支援チームは、対象児童生徒のうち成功体験を得ている児童生徒の割合に関するデータを確認しており、最低でも月1回は意思決定に用いている。さらに支援を変えるべきかどうか(例えば、より集中的にするか、減らすか)に関する意思決定のルールが確立されており、関係者と共有されている。</p>
<p>2.12 第2層支援の実践についての実行度のデータ:</p> <p>第2層支援チームは第2層支援の各実践の実行度を現在進行形で振り返るための手順を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層支援コーディネーターのトレーニング ・学区からの専門的な支援 ・第2層支援チームメンバーによる月毎の実行度の調査 	<p>0 = 第2層支援の各実践の実行度データは、いずれの実践においてもとられていない。</p> <p>1 = 第2層支援の各実践の実行度データ(例:直接観察、支援担当者による自己評価)が、いくつかの実践についてはとられているが、すべてではない。</p> <p>2 = すべての第2層支援の実践について、その実行度に関する定期的で直接的なアセスメントが第2層支援チームによって行われている。</p>

2.13 年度評価:

第2層支援チームは最低年1回、第2層支援の全体的な効果と効率についてデータに基づいて評価する。この評価対象には、データに基づいて第2層支援が必要な児童生徒を特定する際のルール、実施可能な第2層支援の種類、第2層支援の各実践の実行度、支援担当者への継続的な支援、そして教職員および学区のリーダーシップチームとこれらの評価が共有されていること、を含む。

- ・教職員と児童生徒への質問紙
- ・第2層支援の手引書
- ・実行度の評価ツール
- ・学校方針
- ・児童生徒の成果
- ・行政区の報告書

- 0 = データに基づく評価が行われていない
- 1 = データに基づく評価は行われているが、その結果は第2層支援のプロセスを形成するのに使用されていない
- 2 = 最低年1回はデータに基づく評価が行われており、その結果は教職員と学区のリーダーシップチームと共有されている。それに加え、評価に基づく明確な改善点が提案されている

第3層支援:個別の集中的な SWPBS の特徴

特徴	利用可能な情報源	得点化の基準
下位尺度:チーム		
<p>3.1 チーム構成:</p> <p>第3層支援チーム(または第2層支援/第3層支援の統合チーム)には,第3層支援を担当するコーディネーターと以下を提供できる個人を含む(a)応用行動分析学の専門性,(b)学校運営に関する権限,(c)関係諸機関(例個人中心の計画,家庭や地域を含む包括的支援,通級指導等の自立支援)の専門知識,(d)児童生徒に関する知識,(e)全ての学年やプログラムを含み学校を運営する知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織図 ・第3層チーム会議の議事録 	<p>0 = 第3層支援チームに,訓練を受けた第3層支援を担当するコーディネーターが含まれていない,もしくは(a)~(e)の5つの機能を果たす者全てが含まれていない。</p> <p>1 = 第3層支援チームのメンバーは5つの機能のいくつかを備えているが,全部ではない。なおかつ/もしくは5つのうちのいくつかの機能についてはトレーニング中のメンバーがいる。あるいはこれらのメンバーが少なくとも80%の会議に出席している。</p> <p>2 = 第3層チームにコーディネーターと5つの機能を備える全ての者がおり,全メンバーの会議への出席率は80%以上である。</p>
<p>3.2 チームの運営手順:</p> <p>第3層支援チームは少なくとも月1回は集まり,かつ,(1)定例会議の形式/議題,(2)議事録,(3)各参加者の会議における役割の定義,(4)進行中の教職員の行動計画を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3層支援チーム会議の議題と議事録 ・第3層支援会議の役割の説明 ・第3層支援の行動計画 	<p>0 = 第3層支援チームは,定例会議の形式/議題,議事録,各参加者の会議における役割,または,進行中の行動計画のいずれも持っていない。</p> <p>1 = 第3層支援チームは4つの特徴の全てではないが,少なくとも2つは持っている。</p> <p>2=第3層支援チームは,少なくとも月に1回は集まり,そして,定例会議の形式/議題,議事録,会議中の役割を明確にして,かつ進行中の行動計画を持っている。</p>

<p>3.3 スクリーニング:</p> <p>第3層支援チームは、意思決定のルールおよびデータ(例 ODR, 第2層支援の成果や学業達成状況, 欠席, 教師/家族/生徒の意見)を用いて, 第3層支援が必要な児童生徒を特定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校方針 ・第3層支援チームの意思決定ループリック ・第3層支援チーム会議の議事録 	<p>0 = 第3層の支援を受けるべき児童生徒を特定するための意思決定のルールがない</p> <p>1 = 第3層支援の対象となる児童生徒を特定するために, 非公式の手順しかない, もしくは公式の手順はあるが1つの情報源しかない</p> <p>2 = 第3層支援の対象となる児童生徒を特定するために複数の情報源を用いたデータによる意思決定のルールの文書があり, 学校方針/ループリックに教員/家族/児童生徒が意見を述べられることについても明示されている</p>
<p>3.4 児童生徒支援チーム:</p> <p>個別の児童生徒の支援計画に対して, 独自に構成されたチームが存在し(チームメンバーについては, 児童生徒本人や家族の依頼をうける/承認を得る), 児童生徒への個別の支援計画を立案, 実施, モニター, 調整する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去 12ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちランダムに選択された3つの第3層支援の支援計画(TFI 第3層の支援計画ワークシートを参照^{注1)}) 	<p>0 = 必要とする児童生徒全てに個別の児童生徒支援チームが存在しない</p> <p>1 = 個別の児童生徒支援チームは存在するが, 児童生徒/家族からの依頼により独自に構成されたのではなく, なおかつ/もしくはチームメンバーは児童生徒の強みやニーズと部分的に関連している者である。</p> <p>2 = 個別の児童生徒支援チームが存在し, 児童生徒/家族からの積極的な依頼/承認を得て独自に構成されており(生徒の強みとニーズにチームメンバーが明確にリンクしている), 定期的に集まり進捗データを見直している。</p>

<p>3.5 人員配置:</p> <p>第3層支援の支援対象とされた児童生徒の個別支援計画の実行を促進するのに適切な教職員や支援員等が確実に配置されるように、管理計画がなされる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理計画 ・第3層支援チーム会議の議事録 ・第3層支援に割り当てられた常勤スタッフの人数 	<p>0 = 児童生徒個別の支援チームによる支援計画を促進するための人員が配置されていない</p> <p>1 = いくつかの児童生徒個別の支援チームには、支援計画の実行を促進するために人員が配置されているが、第3層支援を最低でも全児童生徒の1%に対して行うにあたり、十分な人員配置ではない</p> <p>2 = 第3層支援の対象とされているすべての生徒の個別行動支援計画の実行を促進するために人員が配置されている</p>
<p>3.6 生徒/家族/地域社会の関与:</p> <p>第3層支援チームには、必要に応じて学校外における支援(例:集中的なメンタルヘルス)を計画・実行するために外部支援機関や資源への働きかけができる学区の連絡担当者がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去12ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちラダムに選択された3つの第3層支援の支援計画(TFI第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)}) 	<p>0 = 学区の連絡担当者が設定されていない</p> <p>1 = 外部支援機関との間で学区の連絡担当者が設定されている、または外部資源が利用可能であり、支援計画の中で明文化されている</p> <p>2 = 外部支援機関との間で学区の連絡担当者が設定されており、なおかつ外部資源が利用可能で支援計画の中に明文化されている</p>
<p>3.7 教職員研修:</p> <p>教員研修計画等に従って、基本的な行動理論、行動の機能、機能に基づく支援について、関係するすべての教職員に研修を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修予定表 ・教職員の手引書 ・教員研修計画 ・学校方針 	<p>0 = 教職員への第3層支援に関する研修が行われていない。</p> <p>1 = 第3層支援に関する教職員研修(新たに配属された教職員を対象としたものを含む)が研修計画等に記載されずに行われている。</p> <p>2 = 関連する全ての教職員を対象に、研修計画等に基づいて基本的な行動理論、行動の</p>

機能, 機能に基づく支援を教え, コーチングしている

下位尺度: 支援計画

3.8 生活の質 (QOL) の指標:

アセスメントには, 児童生徒の強みや, 児童生徒/家族から生活領域全体 (例 学業, 健康, キャリア, 対人) にわたるニーズを聞き取ることが含まれている。さらに, 聞き取ったニーズを満たすためにどのような個別支援が好ましいかについて, 児童生徒や家族の希望を同定することも含まれている。

・過去 12 ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちラングダムに選択された3つの第3層支援の支援計画 (TFI 第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)})

0 = 強みや生活の質のニーズ/目標が定義されていない, または第3層支援の支援計画そのものが存在しない

1 = 強みやより大きな生活の質のニーズ, それに関わる目標は定義されているが, 児童生徒/家族によるものではない, または支援計画の中に反映されていない

2 = すべての支援計画で, 児童生徒/家族によって定義された強みと生活の質のニーズと関連する目標が明文化されている

3.9 学業面・対人面・身体面の指標:

(それが適切な場合に) 学業面 (例: 読むこと, 数学, 書くこと), 行動面 (例: 出席状況, 機能的行動アセスメント, 停学/退学), 医療面, メンタルヘルス面の強みとニーズについて, 関連する生活領域全般にわたり, 評価するデータが活用可能である。

・過去 12 ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちラングダムに選択された3つの第3層支援の支援計画 (TFI 第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)})

0 = 児童生徒の評価が主観的である, あるいは正式な情報源なしで行われる, もしくは第3層支援計画そのものが存在しない

1 = 計画には, 関連する生活領域の情報 (医療, メンタルヘルス, 行動, 学業など) がいくらか含まれているが全ては含まれていない

2 = すべての計画は, 医療, メンタルヘルスについての情報, 適切な場合は学業や行動に関する情報も含む

3.10 仮説の記述:

第3層支援計画には, (a) 問題行動の操作的説明, (b) 問題行動が発生する可能性の高い状況の同定, (c) その文脈において行動を維持している

・過去 12 ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちラングダムに選択された3つの第3層支援の支援計画 (TFI 第3層支援の支援計画)

0 = (a)~(c)の3つの要素すべてを含む仮説が記述された支援計画がないか, または第3層支援計画そのものが存在しない

<p>強化子（例：行動の機能）を含む仮説についての記述がある。</p>	<p>層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)}</p>	<p>1 = 3つの要素すべてを含む仮説が記述された支援計画が1つか2つある。（が、仮説が記述されていない第3層支援計画もある）</p> <p>2 = すべての支援計画に3つの要素すべてを含む仮説の記述がある</p>
<p>3.11 包括的支援:</p> <p>行動支援計画には、以下が含まれ検討される: (a) 問題行動を予防するための方略, (b) 望ましい行動を指導するための方略教 (c) 問題行動の強化子を取り除くための方略, (d) 望ましい行動に対する特定の強化子 (e) 必要な場合は安全の確保, (f) 第3層支援の実践についての実行度と影響を評価するための体系的プロセス, (g) 第3層支援計画実施のための行動計画。</p>	<p>・過去 12 ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちランダムに選択された3つの第3層支援の支援計画 (TFI 第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)})</p>	<p>0 = (a) ~ (g) の 7つの中心となる支援計画の機能すべてを含む第3層支援計画がない、もしくは第3層支援計画そのものが存在しない</p> <p>1 = 7つの中心となる支援計画の機能すべてを含む第3層支援計画が1つか2つある。（が、7つの中心的機能全てが含まれていない第3層支援計画もある）</p> <p>2 = すべての計画に7つの中心となる第3層支援計画の機能がすべて含まれている</p>
<p>3.12 正式な支援と生活環境における支援:</p> <p>広範囲かつ支援者間の連携を必要とする第3層支援計画（例：個人中心の計画、家庭や地域を含む包括的支援、通級指導等の自立支援）には、生活の質に関わる強みが明文化されており、その計画は正式な支援者（例：学校/校区の職員）および生活環境内の（家族、友人など）支援者によって遂行される必要がある。</p>	<p>・広範囲の連携を要する支援が必要な第3層の支援計画うち少なくとも1つ (TFI 第三層の行動支援計画ワークシートを参照)^{注1)}</p>	<p>0 = 計画に具体的な支援行動が含まれていない、または広範囲の連携を要する支援の計画がない</p> <p>1 = 計画に具体的な支援行動が含まれているが、その支援行動は生活の質のニーズには関連していない。かつ/もしくは生活環境における自然な形の支援も含まれていない</p> <p>2 = 計画には具体的な支援行動が含まれ、生活の質に関するニーズと整合性がとれており、生活環境内の支援がある</p>

<p>3.13 第1層および第2層支援との繋がり:</p> <p>第3層支援を受けている児童生徒は、第1層支援、第2層支援も受けることができ、その対象に含まれている。</p>	<p>・過去12ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちランダムに選択された3つの第3層支援の支援計画(TFI 第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)})</p>	<p>0 = 個別の第3層支援計画に第1層/第2層支援についての記載がない、もしくは第3層支援計画そのものが存在しない</p> <p>1 = 第3層の個別支援には、第1層/第2層支援への繋がりがいくらか含まれる</p> <p>2 = 第3層支援は、適切な第1層/第2層支援と完全に繋がっており、どのように繋げるかが明文化されている</p>
--	--	---

下位尺度: 評価

<p>3.14 データシステム:</p> <p>集計された(全体的な学校レベルの)第3層支援のデータは、(a)第3層支援計画実施の実行度、(b)児童生徒の成果について、少なくとも月1回はまとめられ、教職員に報告される</p>	<p>・教職員に対する報告 ・教職員会議の議事録 ・教職員の報告</p>	<p>0 = 定量化できるデータがない</p> <p>1 = 成果や実行度についてのデータはどちらかもしくは両方収集されるが、毎月報告されていない</p> <p>2 = 児童生徒の成果と実行度のデータは両方収集され、少なくとも月に1回教職員に報告される</p>
<p>3.15 データに基づく意思決定:</p> <p>各児童生徒の第3層支援チームは、少なくとも1か月に1回(必要に応じてより頻繁に)集まり、支援計画の実行度、生活の質、学業や行動の成果をより高めるために、データを活用して第3層支援計画を修正する。</p>	<p>・過去12ヶ月間に作成された第3層支援の支援計画のうちランダムに選択された3つの第3層支援の支援計画(TFI 第3層支援の支援計画ワークシートを参照^{注1)})</p>	<p>0 = 児童生徒個人の第3層支援チームは、支援計画の見直しやデータの活用をしていない</p> <p>1 = 個々の児童生徒の第3層支援チームは支援計画の見直しはしているが、実行度と成果のデータのどちらか一方しか意思決定に使用されていない、もしくはすべての支援チームが支援計画を見直しているわけではない</p>

		2 = 個々の児童生徒の第3層支援チームは、意思決定のために実行度と成果の両方のデータを使用して、少なくとも毎月継続的にデータをモニターし支援計画を見直している。
<p>3.16 第3層支援を利用している児童生徒の割合:</p> <p>第3層支援の対象児童生徒の割合を把握する手順書に第3層支援チームは従っており、第3層支援の利用割合は適正である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の進捗状況データ ・第3層支援チーム会議の議事録 	<p>0 = 学校は第3層支援対象の児童生徒の割合を把握していない、もしくは第3層支援計画が作成されている児童生徒がいない</p> <p>1 = 第3層支援の対象となり、第3層支援計画が作成されている児童生徒が1%未満である</p> <p>2 = 第3層支援を必要とするすべての児童生徒(全児童生徒のうち少なくとも1%の児童生徒)が第3層支援の対象となり、第3層支援計画が作られている</p>
<p>3.17 年度評価:</p> <p>少なくとも年1回、第3層支援チームは、第3層支援が児童生徒、家族、学校教職員のニーズをどの程度満たしているかについて評価する。また、この評価は行動計画を策定するために活用される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3層チーム会議の議事録 ・第3層チームの行動計画 ・チームメンバーの口頭での報告 	<p>0 = 年次の振り返りなし</p> <p>1 = 振り返りは実施されているが年1回よりも少ない、あるいは行動計画に反映されない形で行われている</p> <p>2 = 第3層支援の年次の振り返りについて記された文書があり、その文書には行動計画に関わる具体的な決定事項が示されている</p>

学校規模ポジティブ行動支援日本語版 TFI の採点

日本語版 TFI では第1層支援、第2層支援、第3層支援の中心的特徴のうち実行されているパーセンテージを反映する得点が生成される。得点はそれぞれの層(または下位尺度)に対して獲得可能な点数のうちのパーセンテージを算出することで決定される。この計算ではどの項目にも重みづけはしない。

中心の特徴	項目／点数	獲得した点／満点	SWPBS 実行度 (%)
第 1 層支援	I-15 / 30 点	/ 30	%
第 2 層支援	I-13 / 26 点	/ 26	%
第 3 層支援	I-17 / 34 点	/ 34	%